

# 北の地で選手権は継続された

2006年10月29日 第12回北海道・東北選手権大会

青森県協会  
幸山敏克

東北・北海道は一部の協会を除きオリエンテーリング過疎地である。青森県協会は大会運営も6年ぶり、ノウハウの知ってるものは皆無。国際的な名勝地で開催された大会準備の奮闘振りを紹介する。

## 眠れぬ日々とお助けマン

平成18年10月29日に青森県十和田市焼山・湯の台地区で開催された北海道・東北選手権大会を振り返る。

大会当日は天気にも恵まれ、大きなトラブルもなく、無事に大会を終了することができました。大会に参加された選手の皆様、大会運営に力を貸して下さった羽鳥さん(エミット協会)、武石さん(山形県協会)、本当にありがとうございました。

## 青森は、平成17年度だった

北海道・東北選手権は、東北地区の各県協会の持ち回りで平成5年(第1回岩手県)から開催されており、今大会で12回目(平成14年・17年は中止)となる。順番でいくと昨年度、青森県での開催の予定であったが、準備(地図調査)が間に合わず中止、今年度の開催となった。今年度も準備が間に合うのか不安であった。心配で眠れない日々を大会直前まで過ごした。

## 事前の準備

青森県オリエンテーリング協会は、会員21名。そのうち30代以下は1名、あとはすべてそれ以上という(協力的な人が多いが平均年齢の高い)協会である。

競技に関する事前準備(地図調査・コース作成・試走・エミットの設定など)は、久道さん(事務局長)と私が中心になり行った。

地図の調整は、今春卒業した鎌田さん(岩手大学 OLC)にアドバイスをしてもらいながら、大会直前にやっと仕上げることができた。その他の準備は、放課後の山岳部の活動(私は4月から高校山岳部顧問)の中で行い、何とか大会に間に合わせることができた。



フィニッシュ直前の競り合い

## Ecard ってなに？

「Ecard ってなに？」

「エミットってなに？」

大会前日の打合せで、会員の口から出た言葉。大会前日の一番の仕事は、エミットシステム・Ecardを理解してもらうことであった。ほとんどの会員は、ここ数年大会参加・運営をしておらず、OL界の流れとは程多い場所にいる。

最後に青森県協会が全国の流れを感じたのは、今から15年前、平成3年度東日本大会(青森県名川町:現南部町)である(当時私は大学1年生で出場した)。

また、私も競技者としてEcardを使用したことはあるものの、運営者としてEcardを使ったことはなかった。

このような状況で「エミットシステムを使用する」ことは大きな賭けであった。久道さんとともに東北大会に行き、システムの概要を理解した。大会会場で武石さんに会い、準備やバックアップなどについていろいろ話を聞いたことが、大会成立への大きな手がかりになったと思う。

## 設定の頼りは山岳部員

直前の細かい準備は、すべて山岳部の生徒と一緒にやった。エミットの設定やデータの取り込みなどは、パソコン操作が得意な生徒(工業高校なので、パソコンの取扱いはある程度できる)が行った。

本格的なオリエンテーリングの経験

がない生徒たちであるが、事前のシミュレーションを行い、生徒はオリエンテーリングの処理の流れをつかんだようである。高校生の吸収力はすごいとあらためて感じた。

大会当日、生徒は最初の競技者のEcard読み取りで、「OK」と表示されたことで、安心して成績系の業務を行ったようである。大きなトラブルもなくデータを取り込み・速報を出すことができた。

## 新たな可能性・方向性

私はこの4月に転勤になり、新任校で山岳部の顧問になった。青森県の高校山岳界では、生徒・顧問の読図力の低下がひとつの問題になっている。読図力を向上させるための手段のひとつとして、オリエンテーリングが注目されており、今大会にも山岳部顧問が2名、生徒が3名参加している。読図力を向上させるひとつの手段として、すごく魅力的に映っているようである。

来年度は山岳競技とは別に、青森県の高校山岳部員を対象にした大会を開催して欲しいとの要望がある。今後は東北地区各県の高校山岳部が連携して、高校生が北海道東北選手権大会に参加するようになるかもしれない。

入賞賞品はおいしいりんごジュース、参加賞は青森りんごでした。2007年は岩手県で開催されます。皆さんの参加をお待ちしています。

(幸山敏克)